二十一世紀型美術への想い

前田良雄

世は新政権やスカイツリーなどで、新しいチェンジで騒いでいます。油彩画の歴史を少し調べてみると、宗教画、歴史画、官邸画そして印象画と歩み、印象派のなかの広い画法が大ヒット、そして二十世紀後半ではパソコン、及びカメラプリンタが台頭し、なんと読み書きそろばんの他に描くところまで進化しています。カメラ撮影した被写体を布目風のキャンパス(ペーパー)に油絵風に仕上がってきます。音楽や小説も同じことが言えますが、著作権など誠に気の抜けない時代に入ったものです。

私は神社仏閣、街道などアナログ初期のモチーフが好きで、沢山残したい一人です。私は企業人出身で芸術は勉強していませんが、世の流れや様々な局面を経験しておりますので、ご参考意見に一部でもなればと思い述べてみました。

芸術は機械ではありませんから、新型機を設営すれば合理性が達成出来る訳ではありません。私は芸術は創造と行動と反省と考えであり、目で見る絵より、眼に写る絵が描けたらと良いなといつも思っています。要は哲学や創造が一枚の絵に移入されグレードの高いものとなりますから面白いのではないでしょうか。

さて本題に入りますが都美術館は三十五年間のアナログ昭和を歩み、この度デジタル時代対応に向かって改修工事を実施します。

そして新日美も三十三回の堂々たるキャリアを構築し現在に至っております。これを期に運営面など新理念に基づいて一部考えてみたらどうでしょうか。

新しい事は古いことでもあり、先人の積重ねがあって、次のステップに歩めるものであります。そして芸術は個人の自由度を尊重することが基本ですから運営面は一部を現代風に改善することでよいと思います。

目標は二つあります。①国際感覚を意識する。②全員参加型のイベント及びコミニケーション。以下展示会(イベント)への提言(1)受付の脇に新日美の沿革(入会したくなる文章)を百号位のパネル設置(白黒)毎年使用できるもの。(2)過去出品者の画集(非売)の縦型雑誌棚設置、飾っておくと各自がみられるもの。(3)ワークショップルームの設営――　その他展示方法、会場内の障害者に配慮した設営、展示時の応援隊の設置、海外美術情報の掲載等々具体的な提案が述べられています。が紙面の都合と内容として、会の課題事項と思われるので割愛させて頂き、その部分は事務局へまわしたいと思います。

目標をもって絵を描く

大石　亨

人はなんで、何のために絵を描くのか―原点に立ち帰って考えてみる必要がある―会長のお言葉です。

私の場合、ただ好きだから描く。登山家が山がそこにあるから登るのと同様、キャンバスがそこにあるから描く。今では描くことが生活の一部となって、三度の食事をとるのと同じように絵を描いている。

私はそれはそれでいいと思っています。ただここで、「なんのために」となると、これは別問題で、改めて考えてみなくてはなりません。

金を稼ぐためなのか、名をうるためなのか、それとも自己満足のためか…人それぞれに考えがありましょう。

カネを得て名を得て―これは最高です。しかし素人の私が今からどんなに勉強し描いてみても作品がカネになり、名を上げるなどということは、まず不可能です。なまじ、そんなことに　とらわれると、本末転倒―絵をダイなしにしてしまうのがオチです。

そもそも絵画とは無用なもの、それだから自由があり、何人からも束縛されることなく描けるのだと思っている私にとってはとても考えられません。

と言って自己満足というのでは余りにも味気ない。

私が絵を描くのは誰のためでもない。世界中に私だけの―今まで誰一人手をつけたことのない独自の描法を以て独自の絵を描き、伝統と因習の中に沈澱してしまった現在の画壇に新風を吹き込みたいのです。要は新風を巻き起こすべく、日々それを目標に絵を描くといってよろしい。

こうすることによって、見る人に感動を与え、生きる力をかきたてることが出来れば、まさにこれ画家冥利に尽きるというもの。

技術だけでは感動させることはできません。大事なのは「心」、描く本人がまず感動し、それをそのままキャンバスにぶちまけてゆく…私は人の心を揺さぶるような絵を描けたらイイナと思っています。

スケッチ　実施と報告

事業部　一柳　幸

春昼の柳橋界隈　2010-4-26

神田川が隅田川に合流する直前のところにある橋が柳橋だ。橋の南詰めに昔からある柳が、橋の粋な名前の由来だと聞く。美妓が川風を受けながら裾をひらめかせて橋を通り過ぎたこともあったろう。川岸に舫う屋形船、河畔の船宿など風情ある対象を描くには絶好の場所。　「暮れかねる　みなもへ低し　都鳥」 目に映る百合カモメが白かった。のどけしや酒房に面談　華が咲く、と去り難き一日でした。

次回予定

当日の朝7時の天気予報で降水確率50%を超える場合、実施中止にします。

7 月 23 日(金)
五島美術館涼風
東急大井町線上野毛駅改札口
10 時集合

8 月 11 日(水)
水元公園夏木立
JR常磐線金町駅改札口
10 時集合

8 月 23 日(月)
深緑の東大三四郎池
東大赤門前
10 時集合

個展案内

北口夢石と陶芸教室作品展
7 月 28 日～8 月 1 日 9 時～17 時(最終日は 15 時まで)
奈良市音声館℡0742-27-7700

松本　正絵画展
9 月 9 日～14 日　11 時～18 時
ギャラリーR＋℡080-2016-1991
川越市連雀町 15-18

小高峯夫作品展
10 月 7 日～12 日 11 時～18 時
ギャラリーR＋℡080-2616-1991
川越市連雀町 15-18